

【DAY 1】

母の日限定企画のハロー通信「なぜから始まる5日間チャレンジ」にお申し込みいただき、ありがとうございます。サウジアラビアの女性の回の使い方を説明していきたいと思います。

まずハロー通信がお手元に届いたら、全て保護者の方が読み切ることが大切です。親がまず子どもの0.5歩先を歩くイメージで、子供と一緒に例えばお外やお家の中で子供にどれだけ声がけできるかということが大事になってきます。ですので、教材のかっこを埋めることを子どもとやり切るということは大切ではありません。これを子供と一緒に話すことができるということが目的なので、ハロー通信は2歳からでも、3歳でも4歳でも、大きい子でも使えるようになっています。

まず一番最初に、1ページでは記事の内容を子供に話していきます。

2歳から4歳、4歳7歳以降、それぞれ段階をふんでいきたいと思えます

記事の内容は長く2ページにわたっていますので、保護者の方が短く5W1Hにまとめて欲しいです。2歳だとサウジアラビアの女性は車の運転ができなかったけど、できるようになった、と言うように何があったかがわかればいいです。去年の6月(2018年6月)にね、と足して行くことができたらいいです。女性も活躍していけるようになっていっているんだよと付け足してください。

7歳以降は、4歳6歳の要約が自分でできるようにしてほしいです。ただ、だいたい全部の記事を自分で要約する論理的思考がつくのは、10歳以降。7歳頃から少しずつ訓練してほしいです。そうすると難しい新聞の内容などもすっと入ってくるようになります。アトプリはいつも比較することを大切にしています。例えば2歳3歳で言えば、大きい・小さい、長い・短いを比較するように、ここでは日本の女性と世界の女性の比較ですとか、日本では石油は取れるのかな、どこで石油は取れるのだろうかと考えたり、差別とは何かということを考えていきます。

車の運転は日本でも当たり前になっていますので、もし車を運転する機会があれば、車に乗っている時に子供と一緒にサウジアラビアの女性の話をしてほしいです。「サウジアラビアの女性は運転できなかったんだって。」「どうして?お母さんは運転しているよ。」「サウジアラビアの女性と日本の女性は何が違うんだろう」と言うことを考えていくことが大事なんです。

運転ができないと言うことを考えるとき、どんな人は運転してはいけないのか、と言うことをまずは考えていただけたらと思います。じゃあ子供は?遊園地では子ども用の小さな車を運転できる。では、大人の大きな車を運転してはいけない。なんでなんだろうと考えて欲しい。大人と子供は何が違うのだろうか考えなくてはならないですね。それは、自分で判断できるのか、危ないものだからと言うことがあります。例えば車の運転手席に乗らせてみ

て足が届かない。前が見えない。身体的に考えてみてどれだけ危ないことなのかということを知ってほしい。自分で責任が取れると言うことが前提になってくるが、子供はそれができない。ではサウジアラビアの女性はどんな立ち位置にあるのかを考えた時、子供と同じように扱われているということがわかってきます。サウジアラビアの女性は、子どもと同じように責任が取れない、と扱われていたのかもしれないと考えてもいいかもしれないですね。宗教上の理由もあるのですが、まずはその前に身体的理由。日本は18歳から運転できるが、じゃあどうして18歳以下の人は運転できないのか。身体的には運転できるかもしれない。ではなぜダメなのか、をここで一緒に考えていっていただきたいと思います。

国語辞典で調べるところがありますが、ハロー通信では大体いつも3つの言葉が出てきます。国語辞典で調べていく上で、全てを調べようと思わないでください。大体意味がわかるのであれば、書いていっていただいてもいいです。小さいお子さんは辞書で調べる習慣というものをつけてほしい。だいたい権利という言葉だったら「けん」までをお母さんが見つけて最後の「り」を子どもに見つけてもらってください。全部自分で見つけさせて辞書引きが嫌いになってしまうよりは、ギリギリまでお母さんが手伝って、「できたー」という感覚を子どもに味合わせてください。またこの調べた「権利」という言葉を5日間のうちにできるだけたくさん使ってください。言葉を教えるときは、行動と言葉とその意味を3つ合わせて教えていくというやり方をしてほしいです。

ここまでが1日目となります。

一日目は、まず女性とはどんなものなのか一緒に考えて、車を運転するというのはどんな意味があるのか。サウジアラビアでは、女性はどんな立場にあるのかといったことを考えていきますよ。そこから少しずつ7、8歳以降、5歳の子でも宗教とはなんだろうという話を二日目三日目にしますので、そこに行く前に、前段階として頭に入れて話をしたいと思っています。

【DAY 2】

それでは二日目の説明をしていきたいと思っています。ハロー通信の3ページ目をみてください。サウジアラビアに色をぬってくださいと書いてありますが。ただサウジアラビアに色を塗れば良いというものではありません。ハロー通信では、ほとんどの回で地図が出てきます。地図はとても大切なので、いつも身近にあるようにしてもらえたらと思います。ですが国名がたくさん分かるようになるということが目的ではありません。ここではニュースから地図を見て、サウジアラビアはどんなところだろうと地図で探してほしいです。それから赤道の線を引いてもらって、サウジアラビアは赤道から遠いのか近いのかを考えてください。そこから国の場所を確認して、どんな気候なのかどんな食べ物と食べるのかを想像して欲

しいです。どんな服装をしているのかを想像して、おそらくこうだろうと考える力が大切です。それから国名が言えても「雑学でしかなく」バラバラの知識が繋がって初めて教養になります。アトプリは教養を身につけてもらうための教材です。地図では場所を確認して、緯度を調べて、地球には毎日太陽が当たっている。緯度によって太陽の当たる時間が変わる。そして季節によって変わっている。朝起きたら太陽を見て、どこから陽が出ているかなと確認しながら、自分の家、日本、世界、宇宙、と大きくみて、全体をつなげていけるように考えていきます。

そして次は宗教のことを考えていきますよ。日本では小さい子に宗教のことを話していいの？とか、宗教ってちょっと怖い感じ…と日本では考えている方もまだいらっしゃるかもしれませんが、世界では宗教は生活に切り離せない大事なものになっています。日本の学校では、クラスに数人外国人がいる状況かと思います。ほとんどの学校では日本人が通っているかと思います。ですが、アメリカではたかさんの人種の方がいる中で生活しています。ですから、いろんな考え方があるということを知ることがとても大切なことになります。宗教だけではなく、物事を考えるときに、いろんな面から考えるということをハロー通信ではしていきます。なぜハロー通信では宗教を取り扱うのかと考えたとき、キリスト教の人は世界に30%、イスラム教は30%近くいるということを知ると、私たちの子どもたちが将来、キリスト教やイスラム教など、いろんな宗教の人に出逢う可能性があると思うんですね。そのときに、いろんな考え方の人がいるということを知っているのと知らないのでは全然違う見方ができるようになります。この宗教がいいとか悪いとかではなく、フラットに宗教を学んでいけたらと思います。そして、子どもたちには知る権利があると考えています。新聞を取り扱っている性質上、必ず宗教の問題は出てきます。ハロー通信では時期によって、ユダヤ教の「過越の祭り」や、「クリスマス」になるとキリスト教の話だったり、事件が起きたらイスラム教の話だったり、ヒンズー教、仏教の話も取り上げることもあります。

多角的に物事を見られるようになると、算数やいろんな分野でも、いろんな方面から考えていくことが出来るようになります。ですから、宗教とはなんだろうということを元から考えていっていただけたらと思います。もともと宗教は人間にはわからないことが起きたときに、それを説明するために作られました。昔は科学が発達していないので、災害が起きたり、大雨が降ったり、火山が噴火したりそれに理由もつけられない。誰かだったり、神様だったり何かにする思いで、また説明すると言った意味でこのような宗教が生まれました。今はいろいろなことがわかってきたので、神様がいないと考える人、神様はいるよと考える人、色々あると思いますが、考え方の違いを子どもと一緒に話していってもらえたらなと思います。

では、ここで場所と宗教がどんな関係にあるのかということを含めて考えていってもらいたいと思います。ここでニカブというものを被っている女性がいます。、インターネットで

調べると「女性の美しさは夫や親しい人にしか見られてはいけない」という慎みの意味が出てくると思いますが、子どもたちとやっていただきたいことは「なぜこのようなニカブを被るようになったのか」ということまで考えていただきたいと思います。そのときに地理的なことから考えることが大切です。赤道を見て、「あ、ここは暑い国なんだ。だからもしかしたら体を守るために、かぶるのかもしれないね」旗の色を見て「旗に緑があるのは、砂漠だから緑が欲しいなと思って緑にしたのかもしれないね」など、予想して子どもたちと楽しんでいってもらいたいです。答えをパッと見るのではなく、こうじゃないかな？ということを経験で一緒に話し合うそんな時間にしてもらえたらいいなと思います。

【DAY 3】

それでは3日目の説明をしていききたいと思います

ハロー通信の5ページ目を見てください。

3日目は、ニュースで取り上げられているトピックを話題として、子供と話を広げていききたいと思います。

まずニュースのトピックは、サウジアラビアで女性が運転免許を取れるようになった、というものでした。取れるようになった、ということは、今までは女性は運転ができなかったということです。

まずは車を運転するということについて、子供と話し合ってみてください。車は何人も人が乗れて、遠くに行くときに使いますね。そして、ものすごい速さで走れます。早く走れるのはいいけれども、ルールをちゃんと守れずに、事故を起こしたりするととても危険ということをお話します。だから、車を運転する時にはちゃんと責任が取れることが必要だよ。ということ。ルールを守ることができる大人が必要なんだよ。という話をしてください。

こう考えるとサウジアラビアでは、今まで女性は一人前の大人と認められていなかったということになります。サウジアラビアはイスラム教のスンニ派が主流で、女性に対する制約がとても多い国です。それが少しずつ緩和されてきているということが、このニュースでわかってくると思います。

ここまで子供と話したら、今度は「比べる」というステップに行きたいと思います。

身の回りの生活とニュースを繋げていくということをしていきます。

まずは、サウジアラビアの女性は運転できるけれども、日本の女性はどうか。お買い物にお出かけする時に、どんな人が運転しているか見てみましょう。日本では男の人もいれば、女の人も運転しているはずですね。ここで、日本では女性にも運転することが認められているということを、きちんと認識した上で、外でどんな人が運転しているかということを考えてもらいたいです。バスの運転手、タクシーの運転手、トラックの運転手…ここに女性

はどれくらいいるのか、なども話していくと面白いかなと思います。そして、子供で運転してる人はいるのかな。なんていうことも、当たり前なんですけど、当たりの視点を一緒に話すということをしてもらいたいと思います。日本で運転できるのは18歳以上と決まっています。つまり、日本で「責任を取れる大人」とされるのは、18歳以上の男性と女性であるということと一緒に話してみてください。サウジアラビアでは、今まで女性は責任を取ることができない、と差別されていましたが、サウジアラビアでは女性はどんな存在なのかということをいろんな視点で考えてみると、女性を差別していたというような考え方、もしくは女性を大切に思っているからこそ運転をさせなかったということもできるかもしれません。

では日本では女性は差別されていないのかということをもう少し考えていきたいと思います。日本では女性は運転することはできますが、天皇になることはできません。日本の歴史の中で、女性で天皇になったのはたったの8人です。今は女性の天皇は認められていません。ここで、日本には天皇がいて、日本にとって天皇とはどんな存在なのか。なぜ女性は天皇のなれないのかを家族と話し合ってみてください。この時に、王様がいる他の国、たとえばイギリスのエリザベス女王だとかの話を取り上げて比べていくと話が広がって、また日常の会話がどんどん広がっていきます。

家庭の中でも女性と男性の違いをいろいろ比べてみてください。お父さんとお母さんの身体の違い、それから考え方の違いや、働き方の違いなど。歴史の中での役割の違いを見つけるとより話が膨らんでいきます。

最後に、女性でも活躍して世界的に有名になっておる人もたくさんいるということも、子供と話してください。例えば、マリー・キュリー、ルース・ベイダー・ギンスバーク。このような女性がどのような育ちをして、どのようなことを成し遂げたのか、という伝記や絵本が出ていますので、関連して読んでいただけるといいかなと思います。

こんなふうにハロー通信ではニュースを読んだ時に、遠いどこかの国で起こったことだから自分とはあんまり関係ないかなーという形で終わるのではなくて、自分の身の回りの生活にリンクさせて、生活と比べて、家族で議論して生きた学びに繋げていくことをしてもらいたいと思います。これが、知識や雑学で終わらせるということではなく、女性問題から国の文化の違い、宗教の違い、女性と男性の役割の違いを考えることを通して、教養が変わっていくというものになります。IQだけではなく、相手の立場を考えて思いやること、つまりEQもバランスよく育て成長させていくことを、ハロー通信は目的としています。

【DAY 4】

それでは4日目の説明をしていきたいと思います。4日目はハロー通信の今回のサウジア

ラビアの女性の回から少し離れて、2020年8月3日「核融合をおこす」の回、2021年2月27日「クジラの呼吸」の回の抜粋を少し使っていきたいと思います。ハロー通信では新聞記事を取り扱っています。全体的に物事はつながっているので、いろんな回をコネクションして思い出していくという利点もあります。

そして、この核融合をおこす回についてちょっと考えていきたいのですが、まずは「お母さんってどんな存在なの？」ということをやつてお母さんの日ですから、家族で話し合ってもらいたいと思います。私たち人間はどんな人でも、必ずお母さんのお腹の中から生まれてきます。お母さんのお腹の中で栄養をもらって大きくなって、出産の後もお母さんのミルクで育て、危ないことから身を守ってもらったり、本を読んでもらったり、いっぱい楽しいことをして子供というのは成長していきますよね。お母さんはお家の中で太陽のような存在だなと思ったことはありませんか？お母さんがいるとお家が明るくなって、いっぱいの栄養やエネルギーをくれて、たくさん学びをくれる。そう思うとまさにお母さんは太陽のような存在です。

ここで、4日目には“太陽と命”について考えていきたいと思います。私たちは、毎朝太陽の光で目を覚まして、太陽の光があたっている間活動して、日が沈んで夜になると眠ります。太陽の光のリズムに合わせて、太陽からエネルギーをもらって生きています。このエネルギーというのは太陽のどこから出てくるのか、ということを考えてことがありますでしょうか？こういうことを考えずに、ただ当たり前と生きるのではなく、「なんで？」と考えるくせをつけてもらいたいです。この繰り返しが子供の好奇心を育てていくことになりますので、「なぜ」と出てきたら本や図鑑で調べる習慣をつけてください。この場合、太陽のことを図鑑で調べると、太陽がどんな元素でできているのかわかるはずですよ。すると「宇宙は何でできているの？」なんて質問が出てきて「もっともっと知りたい」と好奇心がふくらんでいきます。話を戻して、太陽に水素がたくさんあると、この水素同士がぶつかりあって核融合という反応が起きています。この核融合が起きた時にエネルギーが光となって、出てくるわけですが、この光が地球に届いて、地球の生命は太陽のこのエネルギーをもらって生きています、ということになります。私たちも核融合のエネルギーで生きていますということも認識してもらいたいです。そう考えると、毎日私たちを照らしてくれる太陽というのはすごいなあと感じると思います。そうすると、お母さんはやっぱり太陽に似ているなあって話ができるのではないかなって思います。毎日毎日、必ずご飯を作ってくれたり、本を読んでもらったり、エネルギーを子供たちに与え続けてくれる。太陽のすごさがわかるとお母さんのすごさもわかってきます。毎日当たり前になっていたお母さんのすごさに気づくことができそうですね。

ここまでで太陽とお母さんのコネクションをしたら、今度は生命の進化について考えていきたいです。

次のページの「クジラの呼吸」の回を見てください。私たちは太陽の光を浴びる前に、お母さんのお腹の中で育ちます。太陽は紫外線が強すぎるので、お母さんのお腹の羊水の中で栄養をしっかりとらって、守られて大きくなっていきます。地球の最初の生命も同じでした。最初の生命は太陽の光が届かない、深い海で生まれて、少しずつ進化していきました。ここで図鑑をみて、生命はどのように進化してきたのか、ということ調べてみて欲しいです。私たち人間以外のたくさんの生命が地球上で進化を繰り返してきたのがわかります。そしてこの生命の進化をさかのぼっていくと、“海”にたどり着きます。海があったからこそ命が生まれて、植物も動物も海ですべて生まれて、陸にあがってきました。生命の始まりは海ということになります。ですから「母なる海」と言われたり、海の波の音を聴くと心が落ち着くのかもかもしれません。ここでわかるようにお母さんは命を生む、海をお腹に持っていて、太陽のように毎日エネルギーをくれる存在です。お母さんは命をくれる海であってエネルギーを与え続ける太陽でもあるのです。これを感じられて「お母さんありがとう。」という気持ちをはじめと生まれるのではないかと思います。こんな話を日常の中に入れていただければと思います。

【DAY 5】

それでは最後の日、デイ5の説明をしていきたいと思います。

ハロー通信 11 ページの最後のページをご覧ください。

まず、「関東学をひらく」という文学を読んでいただきます。ハロー通信の最後では必ず作文を書いたり、詩や俳句を書く文学のコーナーがあります。これはその前までに行った取り組みなどをアウトプットしてもらうために、こういった取り組みを入れています。この回では森浩一さんの「関東学をひらく」の一部を読んでもらい、「わたし・ぼくの祖先のおばあちゃんはずごかった」という作文を書いてもらいます。まずはお父さんお母さんが「関東学をひらく」を読んであげてください。これは2歳であっても3歳であっても、7歳であっても同じです。難しいかなあ、と思わずに2歳3歳では噛み砕いてでも大丈夫ですので、どんなお話かシェアしてあげてください。

この話を読むと、日本の女性というのは昔から男性を陰で支えているということがわかります。そして古来の女性というのは、教養もあって、家庭内での力も強かったということがわかんと思います。ここから、教養があって、強い女性をイメージして物語を書いていくのですが、慣れていない方はこれから挙げる4つのポイントに注目して書いていただくとスムーズに書けると思います。まず一つ目、登場人物、主人公、名前、性格、年齢などを決めていきます。二つ目、起承転結として大まかな軸を子供と一緒に考えていきましょう。三つめその軸にそって、情景や会話など、どんなところにいるかな、なんていうのを、目を瞑りながらでもいいので、そこに行ったような感じで細かいところを加えていきます。そして最後四つ目、出来上がったら、最後まで読み返すということをしてみてください。

この話の中では、昔の女性の立場、それから今の女性の立場、どうしてとかどんなふうにおばあちゃんはすごかったのかがわかるように書くのがポイントです。ハロー通信では前半で学んだり、議論をしたり、考えたり感じたことを最後にアウトプットする表現があるのは、インプットとアウトプットを繰り返すことで、学んだことが雑学ではなく教養となり、IQとEQをバランスよく育てていくことになります。5日間を通して体験していただいたかと思いますが、ハロー通信はお子様に知識を入れ込んで覚えさせるという教材ではありません。社会問題やニュースになっているトピックを話題として家族で議論をしたり話し合ったりすることで、家族の絆が深まったり、学びが生活の中に入って行ったりする。これを繰り返していると、「なんでだろうね」と不思議に思うこと、「もっと知りたいな」ということ、自分で調べるように辞書や図鑑を開く習慣がついていきます。そして外に出かけた時に観察する目、感じる目というのが出てきます。おうちで家族全員でニュースについて議論することで、自分の頭で考えることが習慣となっていきます。毎日の生活全てが学びとなっていきますので、子供だけでなく親御さんも考えて、なんでだろう、もっと知りたいなという変化が出てくるのではないかと思います。こういった変化を感じていただけたらと思います。それでは、2歳でも3歳でも物語を作るということに挑戦してみてください。シリコンバレーの学校では、2歳でも3歳でも“お話を作る”ということにとっても力を入れていますので、今回を機に、こどもと一緒にお話を作るといったことを家族で楽しんでいただけたらと思います。ありがとうございました。